



『明月記』断簡



口絵の解説

明月記

鎌倉時代に活躍した偉大な歌人藤原定家が記した日記『明月記』は、その大部分が京都の冷泉家時雨亭文庫に残り、国宝となっている。しかし一部流出したものもあり、それらは3行、5行、あるいは10行と細かく切断されて、断簡や掛け軸となって残されている。

平成23年に新たに加わった当館所蔵の『明月記』も、表装された断簡である。建仁元（1201）年6月1日の条の3行が記され、内容から「千五百番歌合」や悲劇の皇子「三宮親王」についてうかがい知ることができる貴重な新出資料である。

書見台

世界図書館巡礼—東西文化交渉の書籍を求めて

イタリア編(1)—カサナテンセ図書館 内田慶市 3

虫ぼし抄

聖語蔵経巻の魅力 乾善彦 7

「法体系」を「紡ぐ」もの—『Collection des Juris-classeurs』に寄せて— 高作正博 10

平成24年度基本図書購入リスト 13

〈図書館自己点検・評価について〉..... 関西大学図書館自己点検・評価委員会 17

図書館談話室

平成24年度大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修「初任者研修」を受講して 嶋田有理香 39

第14回図書館総合展に参加して 大上良樹 43

図書館活動報告

平成24年度図書館活動報告 47

図書館展示会報告 50

図書館出版物案内 51

規程・内規・要領の改正

平成24年度に制定及び改正のあった図書館諸規程 52

『図書館フォーラム』投稿要項

編集後記